

子どもの日である5月5日付朝刊社説では、子どもの権利条約の理念に沿って子どもを育む必要性が訴えられていた。子どもは一人の人格ある存在で、さまざまな権利を行使する主体である。権利に対して義務を問う人たちがいるが、子どもであることこそ権利が生じる第一の根拠であり、社会には子どもの権利を守る責任がある。

しかし、例えば子どもや若年層の自殺の多さ(3月22日付朝刊、24日付朝刊社説)、子どもシエルトアの運営困難(3月24日付朝刊)、保育所問題(3月17日付朝刊、4月24日付朝刊)などは、子どもたちの権利が侵害され、望ましい社会ではないことを示している。山陽新聞においては、継

山陽新聞を讀んで

川崎医療福祉大講師 直島克樹



子ども追い込む価値の強制

続した問題提起を期待している。ある人たちから聞くこびつく場合があると知問題の背景としてあるとが多いとも感じていらなければならないだと考えなければならぬ。価値や文化の問題

さて、上記も含め、子どもの貧困や虐待などは、労働した方が努力して乗り越えてきたのだから、史があり、培われてきた歴史として考えるとき、権利問題であるが、支援あなたも乗り越える努力を困難にしている一つ。あなたはこれだけ苦

力すべきたと考える、そつしない人を批判ないし排除する傾向がある。努力が必要ないなどと言いたいわけ

が、自立にまつわる自己責任論であると考えている。何かを支えられることは避けるべきだ、甘えあるといいた声を聞くのは珍しくなく、自己責任に支配された価値観が広く浸透していると感じざるをえない。

それは社会的に成功している人や比較的学歴が壊していくことに結

「山陽新聞を讀んで」は月2回、日曜日に掲載します。